

## 保護者・教師への支援

特別支援教育講座・荻田知則

### 1. 授業の概観

本授業は，特別支援教育コーディネーター（SSEC）としての専門性を習得するために必要な科目であり，SSECとして臨床・教育実践を行っていく上で必要不可欠な専門的スキルや共感的態度を学ぶことを目的とした。そのため，(1)問題解決的ロールプレイを通して，特別支援教育対象児を取り巻く保護者・教師を支援する態度を身につける，(2)問題解決場面で用いるスキル（カウンセリング技法，説明・説得・交渉技法）を習得することを，具体的目標とした。授業で取り扱った内容（概要）は，以下の通りである。

- ・特別支援教育の現状
- ・相談・調整・交渉技術に関する心理学的技法
- ・保護者・教師・関連施設との連携（校内委員会を含めた支援体制の構築）
- ・知能検査等の実施に向けた助言・交渉
- ・知能検査等の現場への活用（個別の指導計画・教育支援計画立案）
- ・問題解決的ロールプレイと省察（保護者への聞き取り・実態把握と傾聴技術）
- ・問題解決的ロールプレイと省察（アセスメントの結果報告と指導計画の説明）
- ・問題解決的ロールプレイと省察（クラスメイト等との関係調整）
- ・問題解決的ロールプレイと省察（校外外における支援体制作り：校内委員会，PTA，医療機関等）

### 2. 授業評価法

無記名による 4 段階，もしくは 6 段階尺度のアンケートと，記述式のアンケートを行った。各項目の結果について，図 1，2 に示す。

アンケートは，受講生の成績に一切影響せず，授業に対する自由な回答を保証するために，最終レポート提出後，インターネットを通じて無記名式で行われた。

### 3. 授業評価結果

受講者は，現職教員 9 名，非現職教員 8 名，計 17 名であった（特別支援教育コーディネーター専修 6 名，特別支援学校教育専修 4 名，その他 7 名）。このうち，13 名から回答があった（回収率 76.5%）。

3-1 授業に関する感想（図 1）：ほぼ全ての項目において肯定的感想が得られた。

3-2 授業の目標に対する受講生自身の理解度（図 2）：ほとんどの項目で，受講生自身，授業の目標を達成できていると自己評価している。ただし，支援の具体的方策と基本的知識・態度に関する項目で「どちらかという達していない」という回答が 1 例あったので，次年度は全ての受講生が目標を達成したと感ずることができるよう，授業改善に努めたい。

3-3 その他の感想：授業の内容について，自由記述式のアンケートで多くの回答を得た（以下の回答を参照）。どの回答も肯定的な感想であり，また本授業の目標や社会的意義を理解し，習得

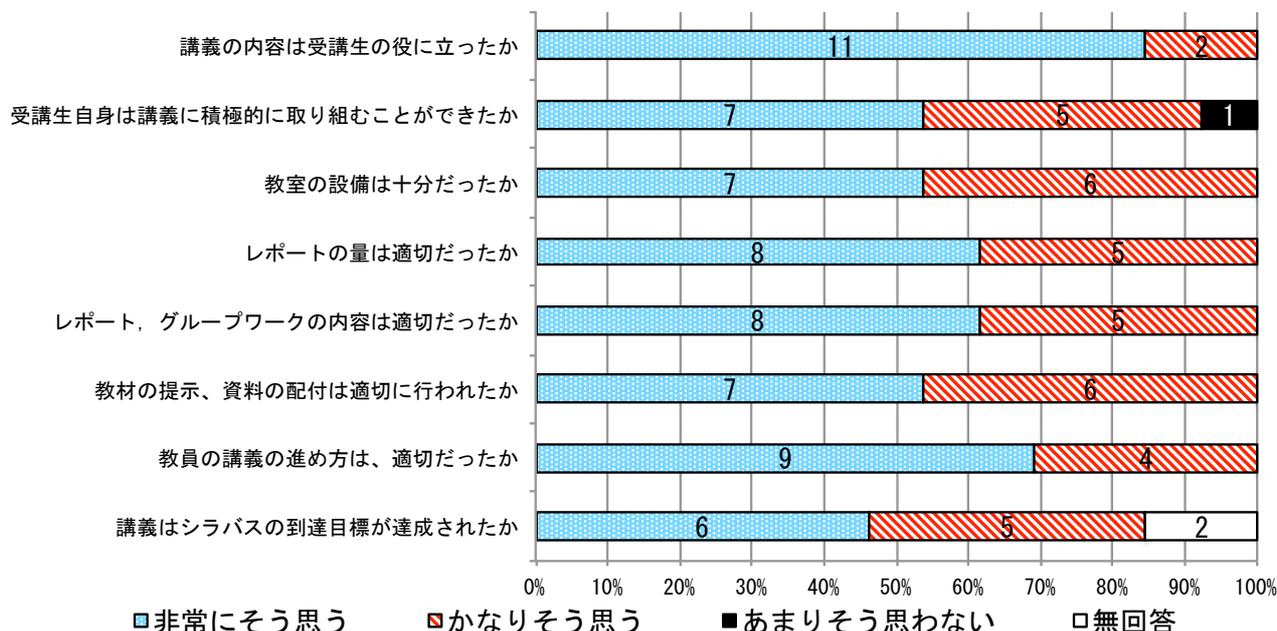


図 1 授業に対する受講生の感想（4 段階尺度）

した内容・技能を現場に還元しようとする建設的な意見であった。これらの回答からも、受講生にとって意義のある授業を展開できたと考えているが、次年度に向けて更に授業内容を吟味したい。

- ・ロールプレイを通して、色々な戦略の理解はできたつもりだが、いざ現場に戻って同じような場面が起こった場合に対応する自信はまだだ。自己評価は低めだが、大変実践的な授業だった。今後の現場では、避けては通れない場面だと思うので、よい心構えになった。
- ・ロールプレイを含んでおり、考える授業だった。ただ、自分で先に考え、状況を自分なりに把握してから、グループで意見交換をし、ロールプレイをした方がもっと考えを深められたかなとも感じる。ロールプレイによってさまざまな立場の違いがあったので、説得者・納得者の2つに分けて話を聞くのではなく、ロールプレイに登場する人それぞれの考え方や感じ方についても話が聞けたら、より実践に生かせるのではないかと感じた。新しい発見が多く、とても満足できる授業だった。
- ・実際に現場で働かされていた学校の先生と授業を受け、とても貴重な時間になった。ロールプレイという実践的な練習も多く、現場の厳しさを肌で感じる事ができた。授業を通して学んだことを生かせるよう、今後もより一層学んでいかなければならないと思う。
- ・発達障がいそのものや支援方法に対する知識がかなり不足しているまま受講してしまったので、コーディネーター役などをするときにはかなり難しかった。事前に基礎的なことをきちんと学んだ上で受講していれば、より理解が進んだように思う。

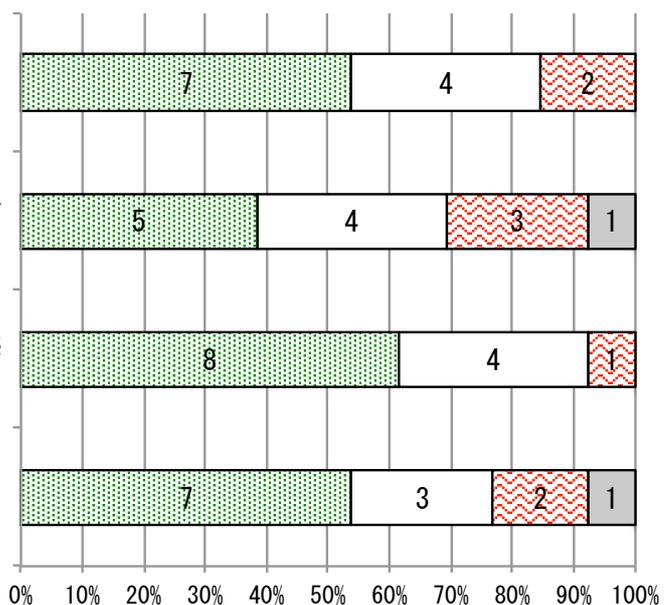
- ・保護者・教師への支援に、社会心理学の理論を取り入れたのは、どのようにして戦略を考え、人的環境を整えて説得・説明をすればいいか？というのがよく分かって、大変勉強になった。
- ・障がいに関する理解という点では、他の受講生の方の知識と比べても仕方がないが、かなり勉強が必要だということを痛感した。学校現場で起こるであろう問題に対しても予測できない点ばかりで、講義を聞いて勉強、班に分かれ他の受講生の方の話を聞いて勉強で、皆さん発言の一つ一つについて行くのがやっとというところが多かったように感じる。講義は大変面白く、勉強になることばかりだった。
- ・ロールプレイングを通して、保護者や担任、コーディネーターなど、様々な立場に立って考えられたことが良かった。保護者や教師へ支援をする際には、事前に用意周到に戦略を練る必要があることを、しみじみと感じさせられた。また、日頃から、保護者や教員との関係はもちろん、地域の方や専門機関等と良い関係を築くことを意識的に行っておくことが大切になってくると感じる。学んだことを、今後学校で活かしていきたい。
- ・全体として、特別支援教育コーディネーターに必要な力量を養うことができた。色々な保護者を相手にするとき「方略を立てる」ことの大切さを意識することができた。セッションの進め方については、ロールプレイを行う役割（保護者・コーディネーターなど）を決めるだけでなく、「観察者」を明確に役割として置くことにより、観察力が養われ、自分が説得するときの参考になると思うので、1つの課題に対して役割を、ローテーションを組んでチェンジするなどのやり方も面白かった。

保護者と担当教師・学校の間が生じやすい問題がわかり、どのような環境・関係調整が必要かを説明できる。

児童生徒と家族を支援するために必要な具体的方策を考えることができる。

発達障がい等がある児童生徒の家庭に生じる問題を共感的に理解しようとする態度を身につける。

保護者支援に必要なカウンセリング・コーディネート基礎知識（意義、制度等）と基本的な態度を理解する。



□かなり達している □十分に達している □どちらかという達している □どちらかという達していない

図2 授業目標への理解度に関する受講生自身の自己評価（6段階尺度）